

農事組合法人 福の里（山口県阿武町）

組織の概要

- 2003年に地域の農地を持続的に守るために、農事組合法人福の里を設立
- 阿武町福田上及び福田下の2地区で約113haを利用権設定
- 設立から20年が経過し、構成員（130名）の高齢化が著しく、2018年以降従業員2名を雇用
- 2005年に農産加工場、2006年に直売所を開設、2023年にJGAP認証を取得



生産概要

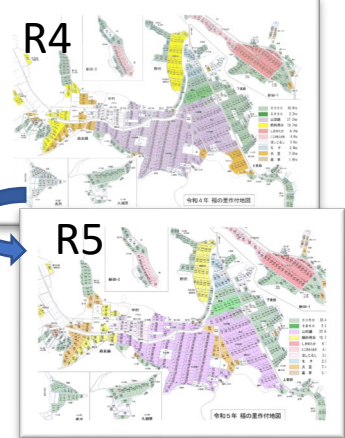
- 【作付面積】水稻：100ha（主食用米、酒造好適米、飼料用米）
大豆：7.5ha、（R5年）
- ほ場利用においてはブロックローテーションの仕組みを導入し、効率的かつ安定的な経営を実現している
- ほ場整備事業（暗渠排水）により水田の汎用化が進行中



取組のポイント

<作付面積拡大に対する取り組み>

- 作業の効率的な利用のため作物ごとに水系を基に団地化に取り組んでいる
- ほ場の排水工事の進捗と併せて、大豆の作付拡大の複数年計画を作成
- 新たに大豆の作付けするほ場でも、暗渠排水の有無に関わらず、明渠設置等の排水対策を徹底し、面積拡大と単収確保の両立に取り組んでいる



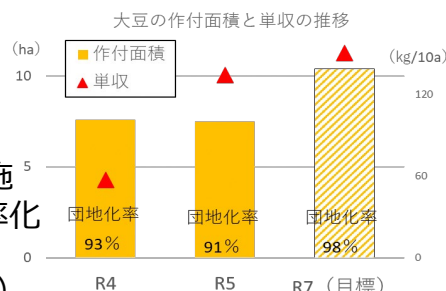
<団地化面積の向上に対する取り組み>

- 地図情報システムを活用し、役員会で各作物の団地化等の協議を実施
- 大豆は単収確保・連作障害回避のため、大豆団地のローテーションを実施

取組成果

<大豆の単収向上>

- 大豆の作付け面積は排水工事の関係で作付拡大が叶わなかったが、団地化により作業効率が向上
- 従来から収穫時期を分散させるために2品種の栽培を行ってきたが、このうち1品種を難裂莢性品種（サチユタカA1号）に切替えを実施
- 上記2点と高性能な普通型コンバインの導入により、収穫作業の効率化と収穫ロスの低減が図られた
⇒2品種の平均単収：57kg/10a（R4）→134kg/10a（R5）



<難裂莢性品種（サチユタカA1号）への切替と評価>

- 従来のサチユタカを、令和5年度からサチユタカA1号に全面切替
- これまでの問題となっていた紫斑病対策の実証を実施
⇒全量1等
- 地域の加工グループから、サチユタカと同等の加工適性を有するとの評価を得ることができた

